

平成21年12月11日付け「建設通信新聞」の コラム「風波」に下記の記事が掲載されました！

12月1日に東京都内のある団地でクリスマスツリーの点灯式が開かれた。団地開きの時からあるヒマラヤスギをデコレーションしたもので、仕事からリタイアした住民が中心になり木にはしごをかけ、飾り付けをした。年々飾り付けに力が入り、見た目も豪華になっているという。

- ◆ 一般的に、老朽化している団地は住民の高齢化が課題とされる。一方で、定年を迎えた人たちが管理組合の仕事に参加する機会が多くなっているのも事実だ。定年後に力を生かす場として管理組合の活動があり、団地の活性化にもつながっている。
- ◆ この管理組合は団地の建替えを計画しているのだが、一般的に困難と思われがちな建替えも、この団地の住民には生きがいのように見える。
- ◆ ある人は、自分たちを「サンデー毎日」と表現する。その心は「毎日が日曜日」、日曜日には楽しみが必要だ。これからやって来るであろう多くの苦労も楽しみに変え、団結して乗り越えていく姿が想像できる。